



最優秀賞受賞にあたって

はらぐちえいち
鹿児島県鹿児島市立甲東中学校 原口栄一

この度は、このような歴史ある大きな賞をいただきまして、誠にありがとうございます。

私は鹿児島県鹿児島市立甲東中学校で理科を教えております。この甲東中学校の校区は今年大変注目されております。おわかりでしょうか。大河ドラマ『西郷どん』の西郷隆盛の誕生地は、我が学校の200メートルぐらいのところでありまして、隣には大河ドラマ館ができて大変にぎわっております。その時期に甲東中学校に勤めております私に、このような栄誉ある賞をいただけたのは、何か不思議な縁を感じます。

さて、私の「原子力・放射線の研究」について少しお話ししたいと思います。

この研究を始めて約25年ぐらいになります。昔から授業でいちばん必要なものは「放射線量測定器（ガイガーカウンター）」です。現在の数値を見てみますと、0.080、0.073と刻々と変わっていくのですが、この事実を生徒たちが知ると、「えっ、放射線あるの？ そんなに」という感じで、大変驚いております。

日常的に放射線というものはあるというその事実をまず生徒には教えないといけないと思います。それで「放射線は特別なものではないんだよ。大きく恐れたり、逆に目に見えないからと言って安全を過信したりしないでね」ということを教えます。

2011年、東日本大震災があり、福島第一原発事故が起こりました。

私はその2年後、福島で取材旅行をしました。

そのとき福島第一原発から離れていても、300マイクロシーベルトぐらいの高い線量の場所もありました。こういうところは、何か鉄の錆びのような匂いがするのです。一方、福島第一原発に近づいていくと、もっと線量が高くなるのだらうと思ったら、逆に今度はどんどん下がっていったのです。不思議でした。そして福島県のいくつかの場所へも行きましたが、鹿児島県とあまり変わらない場所もありました。このような体験を通して、やはり福島の風評被害を防ぎ、広げないようにしなければいけない、正確なことを生徒に教えなければならないと感じました。

今回の論文は、平成28年度に卒業した生徒たちの、1年生から3年間の理科中心の実践をまとめたものです。3年次のまとめの実験では、放射線を防ぐにはどうするかという今日的な課題を設定し、生徒たちに実験を企画させ実行させて、グループでレポートにまとめさせるという授業を行いました。

このような実践が、原子力・放射線の授業を活性化させたいと考えている先生方の参考になり、または実践を真似していただければ幸いです。どうもありがとうございました。